

れきしみち

2024.7
No.133

P2...特集

特別展 ごろごろまるまるネコづくし

ネコづくし



- P4... 収蔵品紹介「三治郎と海を渡った蜜柑」
- P6... 連載「城址公園万葉花ごよみその五「櫛」」
- P7... 展覧会関連イベント「夏の催し物案内」
- P8... ナイトミュージアム／市民ギャラリーよりお知らせ

ANJO CITY MUSEUM OF HISTORY
安城市歴史博物館



れきしみち No.133 令和6年7月発行 編集・発行 安城市歴史博物館

(指定管理者：安祥文化のさと地域運営共同体)

安城市歴史博物館 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地 TEL 0566-77-6655

夜の博物館に行こう！ 「ナイトミュージアム」

8月30日(金)～9月1日(日)

8月30日(金)～9月1日(日)の3日間は安城市歴史博物館、安城市市民ギャラリー、安城市埋蔵文化財センターを夜8時30分(入館は夜8時)まで開館します！(※通常は夕方5時まで)期間中は様々なイベント、アート企画、博物館ナイトツアーをおこないます。ぜひ夜の博物館にお越しください！

8/31
(土)

9/1
(日)

日没～20:30 ※雨天時内容変更あり
会場 東尾八幡社、安祥城址公園 一角
主催 東尾八幡社運営委員会

さとのマルシェ
8/30(金)、31(土)、9/1(日)
16:00～20:30

飲食のキッチンカーや
雑貨やクラフトの店舗が出店
【会場】安祥城址公園
協賛：オフィスジャパニケーション

同時開催

「ごろごろまるまるネコづくし」夜間展示解説

特別展「ごろごろまるまるネコづくし」の展示作品を学芸員が解説します。



【開催日】8月30日(金)
19:00～
【会場】歴史博物館 企画展示室
【定員】15名(先着順)
【参加費】展示観覧料700円
(中学生以下無料)
【申込み】当日18:50～受付

毎年人気の ドキドキ・わくわく 博物館ナイトツアー

夜の常設展示をめぐります。昼間とは違ったドキドキ感をお楽しみください。

【開催日】8月31日(土)、9月1日(日)
①18:00～ ②18:30～
③19:00～ ④19:30～

【会場】歴史博物館2F 常設展示室
【定員】各10名(先着順)
【参加費】1人200円(ミニ灯笼のお土産付き)
【対象】3才以上(小学生以下保護者同伴)
【申込み】8月10日(土)9:00～電話受付



L'eclat チアダンス

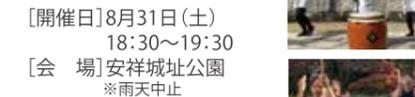
L'eclat チアダンスによるチアダンスステージをお楽しみください。



【開催日】8月30日(金) 18:00～19:00
【会場】安祥城址公園 ※雨天中止
【出演】L'eclat チアダンス

和太鼓演奏

安祥公民館で活躍する2チームが演奏。迫力あるステージをお楽しみください。



【開催日】8月31日(土)
18:30～19:30
【会場】安祥城址公園
※雨天中止
【出演】①安祥太鼓②三州輪つ鼓
19:45～20:15 盆おどりタイム
(協力：三州輪つ鼓、安祥太鼓)

べんてんや ちんどんショー

名古屋を中心に活躍する女性ばかりの「ちんどん屋」さん。目にも耳にも明るく軽快なショーをお楽しみください。



【開催日】9月1日(日)
①17:30～18:00
②19:00～19:30
【会場】安祥城址公園
※雨天時内容変更
【出演】女性ばかりのちんどん屋「べんてんや」

マーブリングでうちわ作り

マーブリングの技法を使ってオリジナルうちわをつくりまわす。(おまけ付き)

【開催日】8月30日(金)
①17:30～ ②18:15～
③19:00～ ④19:45～
【会場】市民ギャラリー 創作実習室
【定員】各8組(先着順)
【参加費】1個200円(1組2個まで)
【対象】3才以上(小学生以下保護者同伴)
※汚れてもよい格好でお越しください。



【申込み】当日17:00～整理券配布

とき マイブクエーストー鹿乗王とまほうの壺

考古学なぞとき。弥生時代にカノリのムラを治めた偉大な王の壺を見つけ出そう！

【開催日】8月30日(金)・31日(土)
18:00～19:30受付
【会場】安祥城址公園ほか
【参加費】1キット/150円
【難易度】小学校3年生以上
【申込み】当日受付



土器ドキ晩ゴハン

火きり杵と臼で火おこしし、復元弥生土器でご飯を炊きあげます。豚汁も配布します。

【開催日】9月1日(日) 17:30～19:30
【会場】歴史博物館前ピロティ
【定員】家族かグループ12組
(1組5名まで/抽選)
【参加費】1人200円

【申込み】8/14(水)まで右記QRよりお申し込みください



申し込みはコチラ

※定員数・開催方法や日時・内容等を変更する場合がありますので、最新情報はHPにてご確認ください。

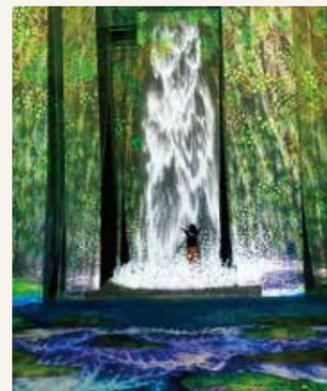
【お問合せ／お申込み】安城市歴史博物館 TEL:0566-77-6655

安城市民ギャラリーよりお知らせ

市民ギャラリー企画展

酒井敦美

光の切り絵展～ヒカリひらう散歩道～



くろそうのまほう

【会期】令和6年8月10日(土)～9月1日(日)
【時間】8月10日(土)～8月29日(木)
9:00～17:00(入館/16:30まで)
8月30日(金)～9月1日(日)
9:00～20:30 ※開館延長(入館/20:00まで)
【会場】市民ギャラリー展示室D・E
【主催】安祥文化のさと地域運営共同体
【後援】安城市教育委員会
【観覧料】一般500円、小中学生100円(未就学児無料)

安祥文化のさと

「安祥文化のさと」とは安城市にある松平氏四代50年の居城跡を整備した安祥城址公園一帯の名称です

【全館共通事項】

住所 / 〒446-0026 愛知県安城市安城町城堀30番地
休館日 / 毎週月曜日(祝日の場合は開館)、年末年始(12/28-1/4)

安城市歴史博物館 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-6655 FAX:0566-77-6600

安城市民ギャラリー 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-6853 FAX:0566-77-4491

安城市埋蔵文化財センター 開館時間 / 9:00～17:00
TEL:0566-77-4477 FAX:0566-77-6600

安祥公民館 開館時間 / 9:00～21:00
TEL:0566-77-5070 FAX:0566-77-6062

公式HP、SNSもご覧ください

安城市歴史博物館

URL / <https://ansyobunka.jp/>



特別展

ごろごろまるまる

ネコづくし



令和6年

7.13土~9.8日

【観覧料】700円

※中学生以下無料
※団体(20名様以上):560円



無款(小林清親)【猫と提灯】
明治10年(1877) (渡邊木版美術画舗蔵)

第1章 猫の姿

猫は完全肉食性で、野性的な環境では鳥や鼠や虫などの小型生物を狩猟し、食料としています。日本でも古くから、その習性を活かして、収穫した穀物などを狙う鼠を退治する目的で、猫は飼育されました。また鼠よけのお守りとして、猫の版画や護符が多く出回りました。

「ねこ」という呼び名は「寝る子」が語源ともいわれるほど、一日の多くを睡眠に費やします。また、熱心に毛づくろいをするのは、獲物に自分の存在を気づかせないようにするための、におい消しが目的の一つとされています。私たちが「猫らしい」と思う仕草のほとんどは、単独行動の待ち伏せ型ハンターならではの習性です。猫が人と一緒に暮らすようになってからも、その習性にほとんど変化はなく、このような猫の姿は多くの作品にあらわされています。



高橋弘明【トマトと猫】
昭和6年(1931) (渡邊木版美術画舗蔵)
トマト畑で獲物を見つけた猫。潜むように低く構えた姿勢、倒した耳、前足の爪を隠して獲物に近づこうとする緊張感が伝わってきます。

第2章 猫と暮らせば

猫好きに男女の区別はありませんが、美しい女性と猫の組み合わせは浮世絵に数多くみられます。

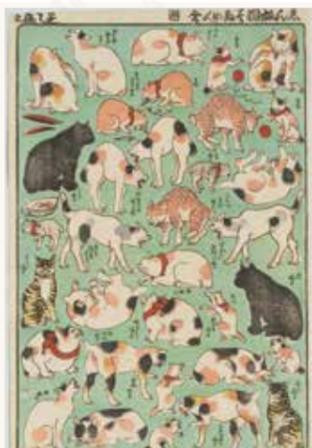
平安時代、猫は室内飼いで首に長い紐をつける風習がありました。「源氏物語」の「若菜」の一場面では、女三宮の飼いの紐が御簾にからまり、まくれ上がったことで女三宮の姿があらわになり、以前から彼女を恋慕していた柏木の目に触れ、さらに思慕を募らせるという、恋のきっかけとして猫が登場しています。江戸時代には、「源氏物語」の絵入りの版本が多数刊行され、猫が走り出る場面が必ず描かれたため、「女三宮と猫」のイメージが一般に浸透していったといえます。



歌川広重 名所江戸百景 浅草田圃西の町詣
安政4年(1857) (渡邊木版美術画舗蔵)
格子窓の外を眺める猫の目線の先には浅草の田圃が広がります。遠くに見える群衆は西の日の縁起物を手にした人々です。部屋の中には人物はいませんが、風鈴や茶わん手ぬい(簀(かんざし)といったものから吉原の遊女の部屋であることがわかります。

第4章 おもちゃ絵猫

明治期には文明開化の影響を受け、海外の文化を積極的に取り入れた浮世絵も登場します。また、江戸後期から明治前期にかけて「おもちゃ絵」が流行しました。実際に切り貼りして遊べるものや、双六、社会の道德や事象を知ることができるもの、たくさんの種類を見せる「尽くし」もの、キャラクターの面白さを追求したものなど多種多様ですが、これらの作品は子どもが親しみやすいよう、動物を擬人化したものが少なくなく、特に歌川国芳門人の芳藤は「おもちゃ絵芳藤」と呼ばれるほど活躍し、師匠と同様に猫を多く描いています。



歌川芳藤 志ん板猫尽両めん合
安政6~明治8年(1859~75) (個人蔵)
このような絵を「両面絵」といい、切り抜いて同じ猫の裏表を竹ひごの先に張り合わせるなどして遊びました。

また、家に鼠がいるのが当たり前だった江戸時代。猫は家庭を預かる女性と実生活でもパートナーだったことでしょう。着物の裾に猫がじゃれつくのもリアルな仕草であり、女性や子どもと猫という題材の作品も多く作られました。



無款(鳥文斎栄之) 風流三幅対【女三宮】
寛政4~10年(1792~98)頃(個人蔵)
「女三宮と猫」のイメージは、猫と立ち姿の美人画として、浮世絵の画題としてとても人気になりました。この作品も、女三宮とその飼いの猫に見立て、首に長い紐をつけた子猫が女性の着物の裾にじゃれています。

第3章 猫七変化

物事の変化が激しいことを「猫の眼のように変わる」といいますが、その表現は、まわりの明るさに応じて猫の瞳孔がすばやく閉じたり開いたりすることに由来します。また、暗闇の中で猫の眼が光って見えるという変化や、従順さが少なく野性味を残した性質から人々は「化け猫や「猫又」という妖怪を生み出していったのでしよう。化け猫は歌舞伎の演目に登場し人気を得ました。一方、浮世絵では、幕府によって役者絵や美人画を描くことが規制さ



歌川国芳 猫の当字 かつを
天保13年(1842)頃(個人蔵)
猫と魚が寄り集まって文字を作る「猫の当字」シリーズの一つ。鯉を啜る猫や頭に袋を被った猫など様々な猫の表情に注目です。



歌川国芳 五十三駅 岡崎
弘化4~嘉永元年(1847~48)頃(個人蔵)
化け猫の中でも岡崎の化け猫は特に有名で、歌舞伎や浮世絵に登場しました。画面中央には大きな化け猫。そして手前には手ぬいをかぶり「猫じゃ猫じゃ」と踊る猫。よく見ると尻尾が2つに裂けています。「おがさけ」と「岡崎」をかけています。

今回の特別展では、単に「かわいい」だけではなく、猫の生態や歴史、人間との関係性に着目し、猫がいる社会の奥深さを知るきっかけにしたいと思っています。

ごろごろとノドを鳴らし、体をまるめる猫たちが「ごろごろ」と登場する「まるまる」猫づくしの特別展です。ぜひお気に入りのパートナーを探してみてください。

(文責:野上真由美)

收藏品
紹介

三治郎と海を渡った蜜柑

市内藤井町にかつて蜜柑園がありました。今から約一二〇年前の明治後期、神谷三治郎が蜜柑の苗木を植えたのが始まりです。蜜柑園は三陽柑楽園と名付けられ、商標を全としました。戦後は商標から「ヤマサン」の名で通っていました。令和四年(二〇二二)、この蜜柑園に関する資料が博物館に寄贈されました。なお、民具資料やラベル等については『安城市歴史博物館研究紀要第二七号』に掲載されています。ここでは文書資料から三治郎と蜜柑について紹介します。



洋行前の神谷三治郎の記念写真

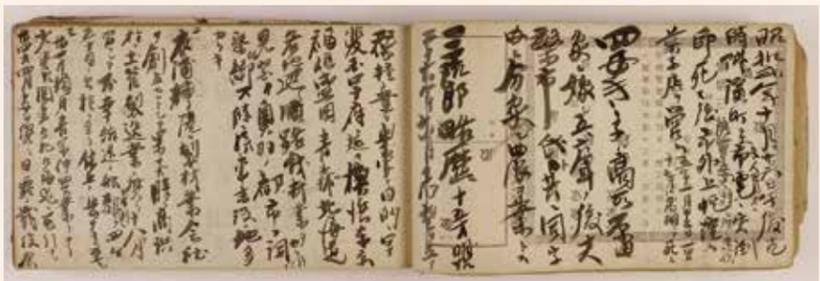
『安城市史』『新編安城市史3 通史編近代』や『桜井の歴史』によると、三治郎は大正六年(一九一七)にロシアのウラジオストクへ梨を紹介したとあります。また『桜井の歴史』には、ウラジオストクへ蜜柑の輸出をして儲けたことにより、明治三十八年(一九〇五)に欧米に渡り、世界を一周してきたとあります。今回、資料を整理していく中で、全てはわかりませんが、三治郎の足跡を一部追うことができました。

三治郎が記した金銭出入帳の「大宝恵記」や後年記した「雑記」から三治郎や蜜柑園について取り上げます。

明治十二年、神谷三治郎は高棚(市内高棚町)で生まれました。一五歳から蚕種業を志して東日本を廻り、その後伐材業を見習いながらも、高浜村(高浜市)で土管製造業に携わりました。二一歳の時に青果仲買業となります。明治三十八年、二六歳の時に柑橘栽培のため南高根(市内藤井町)に土地を求めました。この頃、近くの根崎(市内根崎町)では蜜柑が栽培されていました。明治後期、根崎蜜柑は二〇町歩(約一九・八三ヘクタール)栽培されるほ

ど県内では優位だったそうです。明治末期には岡部町(静岡県藤枝市)から根崎へ視察者が訪れ、蜜柑の剪定を学んだとされます(『藤枝市史通史編下近世・近現代』)。

しかし、大正十二年(一九二二)の八日間の降雪により、蜜柑の木が枯れ、根崎蜜柑栽培は衰退しました。そんな中、同じく被害を受けた三治郎は、「百倍の勢いで回復」し、蜜柑栽培を続けたと自ら回顧し記しています。



三治郎の略歴など記した「雑記」

国内において主に東日本を中心に取引をしていた三治郎ですが、これが蜜柑の出荷だけなのかは、よくわかっていません。三治郎は蜜柑の他に一部ですが、トマトや桃、柿・えんどう等を出荷していました。また肥料や出荷用の木箱(石油箱・りんご箱)を県内外から仕入れて取引をしていました。大きな倉庫に蜜柑を収納し、春四〜五月頃まで出荷していました。年代は不明ですが、荷札から蜜柑の出荷がわかる一例では、青森県のカネフク店、福島県会津若松のカギマン店、長野県松本の内田屋、長野県飯田の南信青果、群馬県前橋の鈴木、滋賀県米原の加藤、茨城県水戸の金常商店等がありました。また、近隣では学校行事や祝賀行事で配布する蜜柑の注文も受けていました。



国内での金久(蜜柑)の送券

三治郎は大正六年、ウラジオオストクに渡り、「露都」を視察後、蜜柑を輸出しました。欧米洋行前に撮影された三治郎の写真が残っています。この欧米をそのままとらえるならヨーロッパとアメリカに渡ったことになりませんが、三治郎の洋行についてわかる資料は前述の記録二点と写真以外に今回みつかることはできませんでした。ロシア革命後、ロシアの通貨ルーブ

ルが暴落し、最後は五〇〇万ルーブルが未決済となり、損害を被りました。

その後、三治郎は国内の販売と共に満洲(中国東北部)へ蜜柑を輸出するようになりました。蜜柑の収穫時には大勢の人を雇い、出荷には安城駅から全国へ、福井県敦賀からは大陸へ出荷していました。終戦までの十数年、三治郎は取引の際の葉書や手紙の控を膨大に残しています。

昭和初期、満洲の牡丹江では三治郎の弟の九兵衛が働いていました。九兵衛はウラジオストクにおいて貿易商をしていた谷源蔵の谷商会に入り、源蔵の娘と結婚しました。その後、九兵衛は源蔵の甥の相見幸八が牡丹江で社長を務める高岡号木材部で勤務していました。三治郎は兄弟の中でも特に九兵衛と交流を持ち、満洲での情報を得たり、高岡号の相見幸八に出資したりしていました。昭和九年(一九三四)からは敦賀の大和田回漕部を通して大陸へ出荷しています。昭和十一年と十三年には三治郎自ら満洲に渡り、蜜柑輸出のため視察しています。その際に寄留していたのは、九兵衛のいる牡丹江でした。残された資料からは新京(吉林省長春市)やハルビンへ桔子(中国語の蜜柑)を送っていることがみえます。

明治後期から昭和にかけて、日本の蜜柑はアメリカ・カナダ・ロシアや中国・満洲・朝鮮などへ輸出されていました。ロシアへは革命後、減少傾向となります。カナダへは静岡からの輸出が群を抜いていました。昭和に入ると、

中国・満洲・朝鮮などへの輸出が急上昇の勢いとなります。満洲への蜜柑の輸出は組合を持つ和歌山や愛媛が優位を占めていました。そのような中で三治郎は個人で蜜柑を出荷しています。戦況が厳しくなる昭和十八年頃には輸出ができなくなり、国内でも蜜柑の出荷は難しくなっていました。

終戦となり、三治郎は満洲の経済事情を知りたいと九兵衛に手紙を書きました。しかし、手紙はGHQの検閲により届きませんでした。しかし、蜜柑の輸出再開はならないまま、三治郎は戻ってきた九兵衛と材木に着手し始めますが、病気のため昭和二十四年に亡くなりました。

三治郎が活躍していた頃、地域は日本デンマークと呼ばれ、全国から視察者が訪れていました。三治郎の蜜柑は個人経営で、組合も作らず、蜜柑園が地域で広がることもありませんでした。その後、三治郎の跡を継いだ武文、

そして三治郎の孫の代まで二〇〇年程蜜柑園は続き、終焉を迎えました。

品名	数量	単位	積込	積出	積込	積出
蜜柑	29	箱	2	1	2	1
蜜柑	14	箱	1	1	1	1
蜜柑	73	箱	3	1	3	1
蜜柑	79	箱	3	1	3	1

大和田回漕部より満洲への蜜柑積荷の案内状

夏休みイベント

夏休み自由研究相談会

歴史関係の自由研究について、
題材や調べ方をアドバイスします。
親子での参加も歓迎。



【日時】7月26日(金)、7月27日(土)、7月28日(日)
10:00~15:00 ※相談時間は最長30分まで
【会場】歴史博物館 体験学習室
【対象】小学3年生から中学3年生まで
【申込】7月6日(土)9:00~電話受付
希望日時、調べたいテーマをお知らせください。
※相談会の枠が空いている場合、当日受付可

オリジナル風鈴づくり

陶製の風鈴に好きな絵を描いて、
オリジナルの風鈴を作ります。



【日時】8月4日(日)①10:00~②13:00~
【会場】歴史博物館 体験学習室
【定員】各15名(事前申込み先着順)
【参加費】500円/1個(材料費)
【対象】どなたでも(小学校低学年以下は保護者同伴)
【申込】7月14日(日)9:00~電話受付

歴史を楽しく学べるカードゲーム 「Hi!story(ハイスト)」体験会 当日受付

「Hi!story(ハイスト)」体験会を開催。
カードゲームで歴史を楽しく学ぼう!

【日時】8月18日(日)
①10:00~11:30
②13:00~14:30
③15:00~16:30
【会場】歴史博物館 講座室
【参加費】無料
【対象】小中学生
【監修】株式会社Highsto [協力]伊與田塾

思考力がアップする
ボードゲーム体験も
同時開催
9:30~16:30



7/13日~9/8日 9:00~16:30

猫のステンシルで 小物づくり体験& 猫のうちわづくり体験

【参加費】200円~500円
(小物による)

7/13日~9/8日 9:00~15:30

まるごと猫づくしクイズラリー

【参加費】1キット200円
※別途観覧料必要(中学生以下無料)

8/3日 14:00~15:00

落語会—ごごろまるまる猫噺—



【出演】お好味家喜楽氏
(前座:永頃亭夢雀氏)
【会場】歴史博物館 講座室
【定員】40名(事前申込み先着順)
【対象】小学4年生以上
【申込】7月13日(土)9:00~
電話受付

8/12日 ①10:00~12:00 ②13:30~15:30

猫の回り灯籠づくり

【会場】歴史博物館 体験学習室
【定員】各10名(事前申込み先着順)
【参加費】2,000円(材料費)
【対象】どなたでも(小学校低学年以下は保護者同伴)
【申込】7月21日(日)9:00~電話受付

8/17日 14:00~ 当日受付

歴博講座「猫のおもちゃ絵」

【講師】野上真由美(本館学芸員)
【定員】60名

ネコづくし 関連イベント



これまで花ごよみとして万葉集ゆかりの花を紹介してきましたが、今回は樹木を取り上げたいと思います。公園や庭木、街路樹としても植えられ、四季折々美しい姿をみせてくれる樹木に「櫻」があります。櫻の枝は扇のように空へ広がり、樹木は美しい形状をしています。櫻はニレ科ケヤキ属の落葉高木で、日本では北海道を除く地域で生育しています。櫻を町の木・市の木としている自治体は数多くあり、大きな櫻は天然記念物にも指定されています。日本人の好きな樹木の二つともいえるのではないのでしょうか。また木材としても色やツヤ、木目が美しく、耐久性に優れていることから建築や家具などに広く利用されてきました。



安祥城址公園に咲く万葉集ゆかりの花や植物たちを紹介していきます。

万葉集が詠まれた時代、諸説ありますが、櫻は「槻」と呼ばれていたといわれます。皇極天皇四年(六四五)、大化の改新で知られる中大兄皇子と中臣鎌足、二人の出会いに槻が登場します。それは法興寺(後の飛鳥寺)にある槻の木の下でおこなわれていた打毬(蹴鞠)の会のことでした。皇子の脱げた靴を鎌足が手に取り、皇子に差し出したことこそ、二人の出会いだったとされています。古来より槻の木は神の宿る神聖な木として尊ばれ、その木の下は貴人の集う場や尊い場所とされていました。

天飛ぶや軽の社の齋ひ槻
幾代まであらむ隠り妻ぞも
(作者未詳)

「天飛ぶ雁(軽)の社の槻。その神木が幾代までも存在するように、貴女もこれからもずっと人の目をばかして隠れてはいなければならない籠り妻なのではないでしょうか」

泊瀬の齋槻が下に我が隠せる妻
あかねさし照れる月夜に人見てむかも
(柿本人麻呂)

「泊瀬の齋槻の木の下にひっそりと隠してある、大切な妻。その妻を美しく輝き照らすこの月の夜に、人が見つけてしまうのではなからうか」

二首とも齋ひ槻や齋槻、つまり神聖な槻(櫻)の下にいる女性を想う歌です。「隠り妻・隠せる妻」は、内緒の妻ともとれますが、容易に会うことの難しい女性という意味だとも思われます。神に仕える巫女のような女性ではないかともいわれています。会いたくても会えない愛しい女性を、軽々しく手を触れてはいけない神聖な櫻のように特別な存在として詠んでいます。



安城市歴史博物館には象徴的な美しい櫻があります。県道78号線から歩いて博物館入口へ向かう時に大きな石銘板がみえます。そのすぐ後ろ、安祥公民館入口近く、円形に囲まれた築山部に櫻が植えられています。駐車場から安祥城址公園を通ってきた際は、石階段を上がって正面にその櫻をみることもできます。博物館へお越しの際はぜひ、四季折々の櫻もお楽しみ下さい。

5回講座 本格的な紙甲冑を作ろう!

厚紙と工芸うるしで
本格的な甲冑を作ってみませんか?



【日時】8月10日(土)、8月24日(土)、
9月7日(土)、9月14日(土)、
9月21日(土)の全5回
各回ともに13:00~16:00
【会場】歴史博物館 体験学習室
【定員】10名(事前申込み先着順)
【参加費】5,000円(材料費)
【対象】小学3年生以上(小学生は保護者同伴)
【申込】7月20日(土)9:00~電話受付

折り紙で遊ぼう!しおり人形づくり

体験人数:5~10名/参加費:1人100円/
所要時間:30分程度

和柄のしおりを作ろう

体験人数:5~10名/参加費:1人200円/
所要時間:30分程度

刺し子で小物を作ろう

体験人数:5~10名/参加費:1人300円/
所要時間:45分程度(小学校高学年以上)

重ね刷りでうちわを作ろう

体験人数:5~10名/参加費:1人350円/
所要時間:30分程度

手持ち灯籠を作ろう

体験人数:5~20名/参加費:1人350円/
所要時間:45分程度

【体験場所】
歴史博物館
体験学習室

【対象】
子ども会、福祉施設
サークル活動、
観光ツアーなど

【申込】
2週間前までに電話
もしくは申込みフォーム
からご予約ください



歴史博物館で 小物づくり体験

随時
受付

お客様よりいただいた個人情報は、本事業のご案内のみに活用させていただきます。
※定員数・開催方法や日時・内容等を変更する場合があります。最新情報はHPにてご確認ください。